

## 石仏にみる船橋と北総の月待信仰

蕨由美

### (1) 月待ちと月待塔

仲間が集って念仏などを称え、飲食をともにしながら月の出を待つ信仰行事。十五夜、十七夜、十九夜、二十二夜、二十三夜、二十六夜などがあり、熱心な地方では毎月、または1、5、9、11月などに行う。戸主の集りである場合は村寄合と近接し、年寄りが講仲間をつくっているときは念仏行事の色彩を強め、主婦や嫁の場合は話合いの場や安産祈願の場となることが多い。青年たちが集るときは酒盛りや大食の行事になることもあり、菓子でも出ると子供も集ってくる。

一般的傾向としては、次第に信仰的な色彩が薄れ、娯楽としての要素が強くなった。最も盛んなのは二十三夜の月待ちで、この夜の月の位置や傾きかげんで占いをしたり、立待ちといって峠などに月の出を迎えに行き、そこで拝んで帰るものもある。村の四つ辻などに「二十三夜塔」「三夜待」「三夜供養」などの文字を刻んだ石塔が多く建っているのをみても、この行事の盛んであったことが知られる。

(コトバンク ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典)

### (2) 全国の月待塔(当たり日による分類)

- ・十三夜塔＝旧暦9月13日の十三夜に行う月待の記念として造立した塔。虚空蔵菩薩を本尊とする。
- ・十四夜塔＝旧暦14日の月待の記念として十四日念仏講中によって造立された塔である。利根川中流域の十四日念仏はダンゴ念仏とも呼ばれ、団子を月に供えて念仏を唱えた。塔の造立数は少なく、「十四夜念仏」「十四日念仏」などと刻まれる。
- ・十五夜塔＝旧暦8月15日の十五夜に行う月待の記念として、十五夜念仏講中によって造立。刻像には大日如来、阿弥陀如来、薬師如来、観音菩薩、地藏菩薩、虚空蔵菩薩がある。
- ・十六夜塔＝旧暦16日の月待の記念として、十六夜念仏講中によって造立された塔である。十六夜月待は、関東北部の栃木、茨城、群馬で行われた刻像には大日如来、阿弥陀如来、聖観音、如意輪観音、地藏菩薩などがある。
- ・十七夜塔＝旧暦17日または旧暦8月17日の十七夜に行う月待の記念として造立した塔である。十七夜月待は茨城、千葉、新潟、岐阜、静岡、愛知、兵庫、山口、愛媛、福岡、佐賀、鹿児島などで行われた。
- ・十八夜塔＝正月、5月、9月、11月の旧暦18日に餅をついて月に供える月待の記念として造立した塔である。十八夜月待は東北地方で若者によって行われ、塔も東北地方に多い。刻像塔は少ない。
- ・十九夜塔＝旧暦19日の月待の記念として、十九夜講中によって造立された塔である。十九夜講のほとんどは女人講、念仏講である。子安講といい、安産を祈願することもある。「十九夜塔」「十九夜念仏供養」などと刻まれた文字塔と如意輪観音の刻像塔があり、山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉などに分布する。
- ・二十夜塔＝旧暦20日の月待の記念として造立した塔、刻像には阿弥陀如来、聖観音、如意輪観音、勢至菩薩、地藏菩薩などがある。宮城、茨城、栃木、千葉などに分布する。
- ・二十一夜塔＝旧暦21日の月待の記念として、二十一夜講中によって造立された塔。二十一夜講のほと

んどは女人講、念仏講であり、如意輪観音を本尊とする。塔には「二十一夜供養」などと刻まれた文字塔と如意輪観音の刻像塔がある。群馬県北部に多く、千葉、東京にも分布する。

・**二十二夜塔**＝旧暦 22 日の月待の記念として、二十二夜講中によって造立された塔である。二十二夜講のほとんどは女人講、念仏講である。如意輪観音を本尊とするが、准胝観音を本尊とする地方もある。「二十一夜」「二十一夜念仏供養」などと刻まれた文字塔と如意輪観音の刻像塔があり、群馬と埼玉を中心に、宮城、福島、新潟、山梨、長野、岐阜、愛知にも分布する。

・**二十三夜塔**＝旧暦 23 日の月待の記念として、二十三夜講中によって造立された塔である。二十三夜待は勢至菩薩を本尊とし、月待を行う日は、毎月 23 日、あるいは正月、5 月、9 月、11 月の 23 日など、地方によって異なる。他の月待塔は地域による分布の偏りがあるのに対し、二十三夜塔は日本全国に分布している。文字塔と刻像塔があり、刻像は勢至菩薩が多い。二十三夜待は「三夜待」「三夜供養」のように二十を省略して呼ばれることがある。文字塔には「念三夜」や「月天子」と刻むものがある。

・**二十六夜塔**＝旧暦 26 日の月待の記念として造立した塔である。愛染明王を本尊とし、月待を行う日は、正月 26 日、7 月 26 日、毎月 26 日など、地方によって異なる。「二十六夜塔」などと刻まれた文字塔と愛染明王の刻像塔が関東地方以北を中心に分布する。江戸では旧暦 7 月 26 日の月を阿弥陀三尊の出現(月光の中に弥陀・観音・勢至の三尊が現れるという言い伝え)として拝んだ。二十六夜待ちは、江戸では高輪から品川あたりにかけて盛んに行われた。

・**七夜待塔**＝旧暦 17 日から 23 日までの「七夜待」の記念として造立した塔である。七夜待における各夜の本尊は千手観音、聖観音、馬頭観音、十一面観音、准胝観音、如意輪観音の六観音と勢至菩薩である。刻像塔と文字塔があり、刻像塔には各夜の本尊が独立して 7 体刻まれたものと、1 基にまとめて刻まれたものがある。文字塔には「七夜待供養」の銘が刻まれたものと、各夜の本尊名が刻まれたものがある。

・**月待板碑**＝中世に造立された板碑のうち月待信仰によって作られたものは月待板碑と呼ばれる。関東地方の南部に約 140 基が分布し、ほとんどが青石塔婆である。十三仏や阿弥陀三尊、勢至菩薩などが刻まれ、日付では 23 日が多い。埼玉県富士見市の 1441 年(嘉吉元年)のものが最古である。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/>

### (3) 船橋市内の月待塔

船橋市内の月待塔は、十九夜塔・二十三夜塔・二十六夜塔の三種類です。

月待塔	基数	最古の年銘		他の主な石塔	基数	最古の年銘	
		延宝 5	1677			念仏塔	34
十九夜塔	88	延宝 5	1677	念仏塔	34	万治元	1658
二十三夜塔	29	元文 4	1739	庚申塔	330	寛文 4	1664
二十六夜塔	8	貞享 5	1688	子安塔	76	安永 7	1778
月待塔総数	125			馬頭観音供養塔	407	延宝 3	1675

出典：『船橋市の石造文化財』（昭和 59 年刊行）から集計

#### 【船橋市内の月待塔の事例】

##### ① 十九夜塔

・延宝 5 年 8 月 19 日(1677) 田喜野井正法寺 如意輪観音像「十九夜講／如意輪観世音菩薩／現未来願成就為菩提也」

・元禄 3 年 10 月吉日(1690) 鈴身町 蓮蔵院 如意輪観音像「□造立十九夜念仏」

- ・元禄 11 年 2 月 19 日 (1698) 高根町 観行院墓地 如意輪観音像「十九夜念仏祈」
- ・元禄 17 年吉日 (1704) 高根町 観行院墓地 如意輪観音像「奉納十九夜成就所」
- ・享保 8 年 (1723) 海神六丁目 大覚院 如意輪観音像「十九夜念仏講為二世安楽也」
- ・享保 13・11・19 (1728) 東船橋一丁目 日枝神社脇 如意輪観音像「奉造立如意輪像念仏講成就所」
- ・享保 16 年 10 月 (1731) 田喜野井 正法寺 如意輪観音像「十九夜講成就之攸／善女同行三十六人」
- ・寛延元年 (1748) 西船三丁目 正延寺 如意輪観音像「造立十九夜念仏」
- ・安永 8 年 (1779) 米ヶ崎 無量寺 子安像「十九夜講中 二世安楽」

## ② 二十三夜塔

- ・元文 4 年 (1739) 金杉三丁目 旧金蔵寺 勢至菩薩像「廿三夜講中／甚兵衛 (他 12 人の名)」
- ・寛延 3 年 (1750) 八木ヶ谷五丁目 長福寺 勢至菩薩像「三夜／講中」
- ・鈴身町蓮蔵院 明和元年 (1765) 文字塔「奉待廿三夜供養塔／願主長兵衛／男女講中」
- ・文政 2 年 (1819) 大神保町十字路 道標付き文字塔 「廿三夜供養塔／普門品一万巻成就  
東舟尾むら道／北きをろしみみち／西大志んぼう村」
- ・文政 10・4・21 (1827) 前原五丁目百庚申 文字塔「(サ) 二十三夜塔／村中」
- ・天保 3 年 (1832) 山手三丁目 諏訪神社 文字塔「廿三夜／當邑講中」

## ③ 二十六夜塔

- ・貞享 5・2・26 (1748) 高根町 観行院「帰命月廿六夜／願主藤次郎 (他人名 10 名)」
- ・寛政 10 午年 (1798) 夏見町六丁目馬頭塚 馬頭観音像「西夏見六夜講中」
- ・天保 3 年 (1832) 坪井町太山堂前 文字塔 「廿六夜愛染明王／女人講中」
- ・天保 9 年 (1838) 夏見二丁目 日枝神社 愛染明王像「当村二十六夜講中」
- ・大正 12 年 (1923) 東船橋七丁目 茂呂神社 文字塔「二十六夜塔」

### 【参考】

## ④ 念仏塔

- ・万治元年 (1658) 本町 2 丁目路傍 「西向き地蔵」(延命地蔵像)「念仏講中間拾貳人同女人十六人／さんや村」
- ・寛文 2・10・24 (1661) 東船橋一丁目 日枝神社脇 延命地蔵像「念仏講男女成就所」
- ・寛文 9・10・吉 (1669) 東船橋一丁目 日枝神社脇 如意輪観音像「善女人念仏講之衆等現当成就敬白」
- ・貞享 4 年 (1684) 印内町 木戸内地蔵堂 伝・成瀬地蔵像 「念仏講連衆／お岩 (他女性名 18 名)」

## ⑤ 愛染明王供養塔

- ・文化 8 年 (1811) 本町四丁目 道祖神社 愛染明王像「女人講中」

### 【注目する点】

- ・女人講である十九夜講の前身が念仏講であったことを石仏の銘文からたどることが可能。
- ・船橋市域では、馬とともに生活し発展してきた地域からか、馬頭観音塔が多く、寛政 10 年の馬頭観音像は二十六夜講により建立されている。
- ・江戸後期の二十六夜塔は、女人講の建立であった可能性が否定できない。
- ・江戸後期から、十九夜塔の刻像が如意輪観音像から子安像に、そして女人講は子安講に代わっていく。

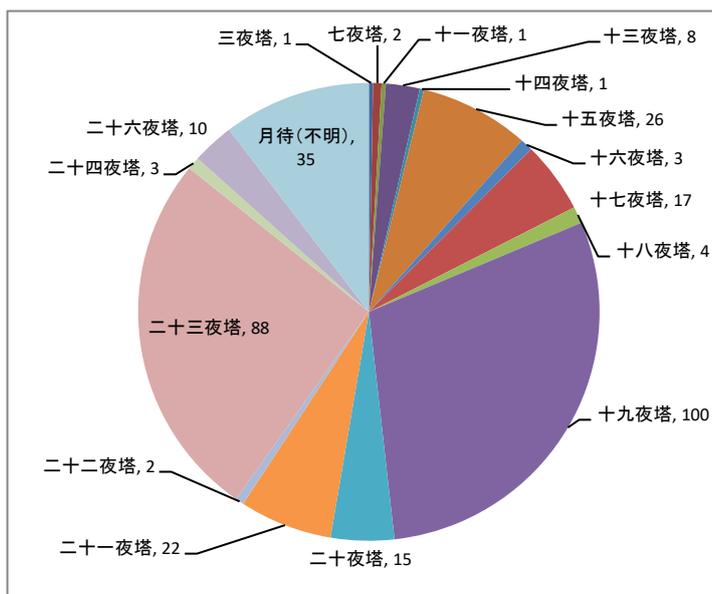
#### (4) 千葉県北部の月待塔の地域的な様相

##### ① 北総 10 市町村の月待塔の種類別基数

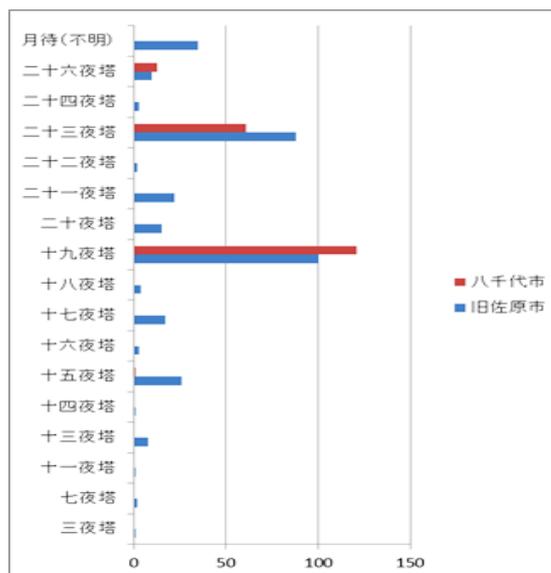
(完全なデータを分析したものではありませんが、地域的な様相の違いや傾向の把握のために、集計してみました。)

月待塔種類	旧佐原市	旧成田市	佐倉市	旧印旛村	八千代市	白井市	四街道市	八街市	習志野市	君津市	計
三夜塔	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
七夜塔	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	6
十一夜塔	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
十三夜塔	8	4	1	1	0	0	0	0	0	0	14
十四夜塔	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
十五夜塔	26	18	0	5	1	0	0	0	0	0	50
十六夜塔	3	3	0	1	0	0	0	0	0	0	7
十七夜塔	17	7	0	3	0	0	0	0	0	0	27
十八夜塔	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
十九夜塔	100	62	93	100	121	85	21	0	25	0	607
二十夜塔	15	3	0	1	0	0	0	0	0	0	19
二十一夜塔	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
二十二夜塔	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
二十三夜塔	88	37	41	48	61	28	1	1	2	4	311
二十四夜塔	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
二十六夜塔	10	3	5	7	13	0	0	0	1	0	39
月待(不明)	35	1	0	1	0	1	0	0	0	0	41
計	338	139	141	171	196	114	22	1	28	7	1157

北総 10 市町村の月待塔の種類別基数グラフ



旧佐原市と八千代市の比較



\*電子データ「下総地方中部 8 市町村（習志野市・佐倉市・成田市・四街道市・酒々井町・八街町・印旛村・本埜村）石造文化財データベース 2011 年版」（白井豊・吉村光敏・吉田文夫・西岡宣夫）、「八千代市石造文化財一覧表」（2011 西岡）「佐原市石造物目録」（2012 西岡）を使用

##### ② 十四～十七夜塔の事例（十五夜塔を除くときわめて少ない）

- ・元禄 11（1698）香取市山川墓地 阿弥陀像 「拾四月待」銘
- ・元禄 9（1696）佐倉市飯野観音 阿弥陀像「十五日念仏」塔
- ・寛政 7（1792）土浦市小岩田 東福聖院廃寺跡 子安像「十六夜」「女人講」銘
- ・享保 1（1716）八千代市村上 正覚院 地藏像「十五夜念仏」塔（おいわ おい□等女性名）
- ・明和元（1756）香取市龍谷 円珠院跡 聖観音像「十五夜」塔

- ・文化7 (1810) 香取市石納 観照院 子安像「十五夜」塔
- ・元禄11 (1698) 香取市龍谷円珠院跡 聖観音像 十七夜塔
- ・延享3 (1746) 香取市石納 結佐大明神 如意輪観音像「十七夜」塔

### ③ 十九夜塔をめぐる課題と事例

#### 1. 十九夜塔の分布

千葉県北部、茨城、栃木、埼玉、福島県の一部に多い。特に利根川流域を中心に、「古鬼怒湾」あるいは「香取の海」といわれる霞ヶ浦から印旛沼・手賀沼を含む湖沼から遡上する河川沿岸の村々ひろがる。

初期の十九夜塔造立は、利根川とその支流の小貝川・手賀川・長門川・利根常陸川の流入地点が早い段階から十九夜塔普及の地域となっている。

栃木県	2702基
茨城県	1672基
福島県	1449基
千葉県	1175基 *
群馬県	142基
埼玉県	108基
中上敬一氏の2005年報告	
* 石田年子氏の2011年の集計で	
千葉県	1997基

茨城県側	
利根町	10基
伊奈町	7基
取手市	6基
藤代町	3基
鹿嶋市	3基
千葉県側	
印西市	12基
佐原市	6基
印旛村	6基
我孫子	5基

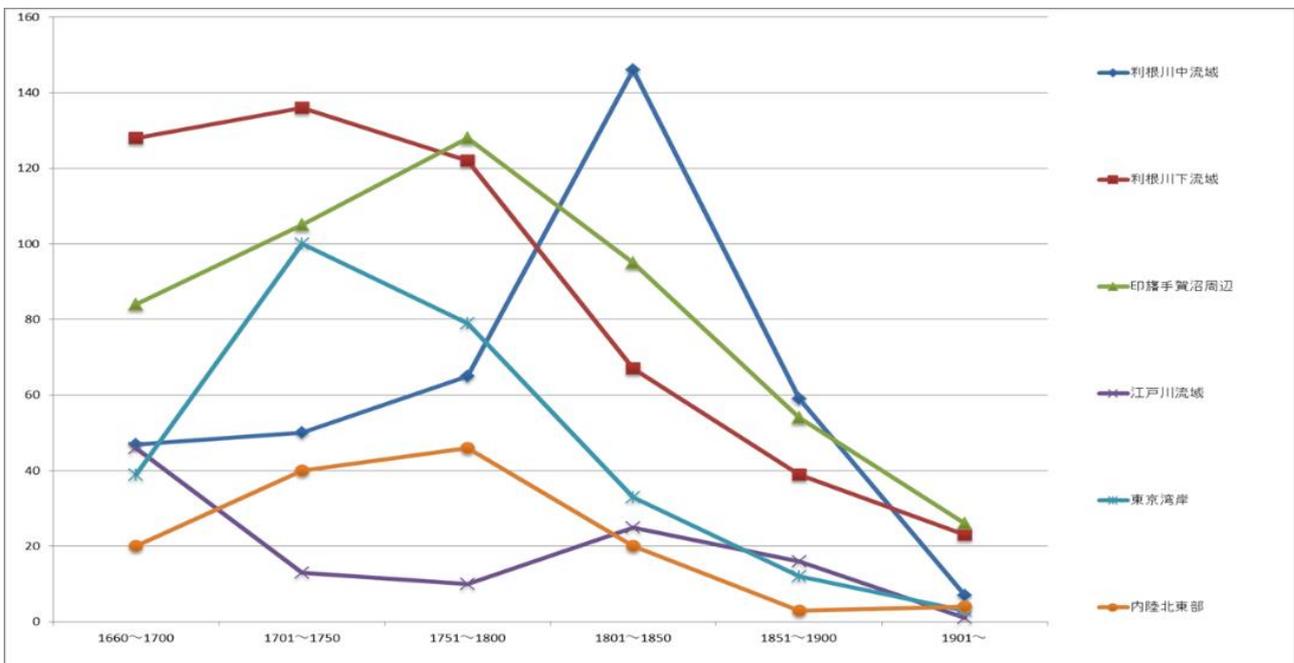
資料1-2表3 千葉県北部の十九夜塔の分布と推移

石田年子氏調査データ（『房総石造文化財研究会主催 2011年第17回石仏入門講座』から藤が整理・集計・作図）

2012.2.3

西暦	利根川中流域	利根川下流域	印旛手賀沼周辺	江戸川流域	東京湾岸	内陸北東部	計
1660～1700	47	128	84	46	39	20	364
1701～1750	50	136	105	13	100	40	444
1751～1800	65	122	128	10	79	46	450
1801～1850	146	67	95	25	33	20	386
1851～1900	59	39	54	16	12	3	183
1901～	7	23	26	1	3	4	64
不明	9	41	24	5	18	9	106
合計	383	556	516	116	284	142	1997

エリア	市町村名
利根川中流域	野田 柏 我孫子
利根川下流域	印西 栄町 成田 佐原 東庄 小見川
印旛手賀沼周辺	沼南 鎌ヶ谷 白井 八千代 佐倉 酒々井 印旛 本埜
江戸川流域	市川 松戸 流山
東京湾岸	船橋 習志野 千葉
内陸北東部	四街道 富里 大栄 山田 八日市場



#### 2. 千葉県内の十九夜塔の始まり

千葉県で一番古い十九夜塔は、承応元年（1652）香取市石納 結佐大明神の宝篋印塔ですが、「十九夜念仏供養 二世安楽」などの銘文と、如意輪観音像を刻んだ典型的な十九夜塔が盛んに建てられるよ

うになるのは、千葉県内では万治3年（1660）山武市戸田の金剛勝寺の十九夜塔からである。

なお、千葉県内のその頃の像容は、二臂より六臂の如意輪観音像が多く、またまれに聖観音像や地藏像の十九夜塔も見られる。

- ・承応元年（1652）香取市石納 結佐大明神境内 宝篋印塔 石塔で中段に「キリーク」の梵字と基礎に「承応元年（1652）壬辰／十九夜侍之供養／十二月十九日」の銘
- ・明暦元年（1655）山武郡芝山町加茂普賢院 六地藏立像の石幢「奉新造立石六地藏十九夜侍」の銘
- ・万治2年（1659）山武市本須賀 大正寺 宝篋印塔「上総国山辺庄武射郡南郷本須賀村 奉唱満十九夜念佛二世安隠之所 萬治二年己亥三月十九日 結衆七十五人敬白」の銘

### 3. 十九夜塔の発祥地-筑波山ろくの石塔

つくば市平沢の八幡神社には、「寛永九年（1632）三月十九日 願主敬白」と刻した石塔があり、雲母片岩に稚拙な彫りで日月と蓮華座に座す仏像を刻まれている。「十九日」の日付から、観音坐像を彫った十九夜供養塔で筑波町最古とされているが・・・

### 4. 茨城県利根町の十九夜塔

- ・寛永15年（1638）利根町大平神社「念佛之」「九月十九日」銘の石祠
- ・万治元年（1658）の最古の如意輪観音像の十九夜塔 布川の徳満寺 四臂如意輪観音を線彫の板碑型
- ・万治2年（1659）布川神社 「十九夜」塔 六臂如意輪観音を線彫りした板碑型

### 5. 千葉県での如意輪観音像の十九夜塔の始まり

- ・万治3年（1660）山武市戸田の金剛勝寺
- ・寛文3年（1663）山武市松ヶ谷の勝覚寺
- ・寛文5年（1665）印西市小倉青年館
- ・寛文6年（1666）印西市山田円蔵寺
- ・寛文8年（1668）印西市大森古新田青年館（他 印西市に寛文8～13年に7基）
- ・寛文10年（1670）白井市延命寺
- ・延宝2年（1674）八千代市高津観音寺

### 6. 如意輪観音像以外の像の十九夜塔事例

- ・寛文13（1673）香取市西音寺 聖観音像
- ・延宝2（1674）香取市田部西雲寺 聖観音像
- ・元禄8（1695）香取市西音寺 地藏像
- ・享保13（1728）習志野市津田沼東福寺 大日如来像
- ・寛政11（1799）香取市石納結佐大明神 虚空蔵像 「淡嶋」銘
- ・享保5（1720）佐倉市先崎みどり台墓地 六地藏 「十九夜講村中」銘
- ・宝暦13（1763）八千代市萱田長福寺宝篋印塔「奉造立六地藏講中 奉供養十九夜講中 當村善女人」

### 7. 子安像の十九夜塔事例

- ・寛延4（1751）旧大柴町馬乗里お堂付近
- ・宝暦2（1752）成田市水掛48墓地
- ・宝暦5（1755）旧本埜村 行徳稲荷神社
- ・天明7年（1787）山田町大角稲荷神社
- ・寛政8（1796）香取市与倉・西方院跡
- ・文久元年（1861）～大正6年、船橋市古和釜町東光寺に4基
- ・大正9年（1920）～平成26年、八千代市下高野福蔵院に13基

## 8. なぜ十九夜なのか？ 利根川べりに十九夜塔が多いのはなぜか？

・五来重の『石の宗教』＝「観音の縁日の18日に遠慮」「十九は馬鹿とか安物、つまらぬもの」「女人自ら罪業深きつまらぬものと自覚」「間引きの罪悪感→死児の供養」

⇒遠藤和男「女人講は十九夜ばかりではない。江戸時代の女性は低い地位に甘んじていたかどうか検討の余地がある」

⇒中上敬一（⇒五来氏の説に反論）「十九夜塔が関東で3000基以上も堂々と建立されている。」「十九夜の由来は、女の厄払いと安産（難産除け）祈願であった、若き女の厄年は十九歳であるからこれを日厄にして十九夜ができた」（結果論か？）

・茨城県新治郡出島村に残された明治十年の和讃「帰命頂礼 十九夜の由来を詳しく尋ねるに数多の諸仏集まりて、若き女の大厄は、難産除けの祈祷にて、火水を改め身を清め十九夜待をするならば、慶長元年酉の三月十九日 十九夜念仏始まりで、雨の降る夜も降らぬ夜も・・・」

- ・利根川べりの女人講が十九夜と如意輪観音に定着するのは、十九夜塔で見ると寛文10年(1670)以降。
- ・元和7年(1621)から本格化した利根川東遷の治水大事業が一段落し、銚子から関宿を經由、江戸に至る水運のほか、新田開発が大規模に進んでいく頃である。
- ・費用のかかる石造物建立は、女性の地位が高く、財力もあった証である。
- ・二世安楽を祈願する中世末期の念仏講から、女人講が江戸初期の早くから成立した。
- ・女人往生と安産祈願は、不可分である。
- ・江戸中期には、子安信仰と習合⇒現世利益・親睦・相互扶助が中心、如意輪観音像から子安像塔へ。
- ・十九夜の日がちが講の日選ばれたのは、謎です。

### ④ 二十一夜塔の事例

- ・宝永4(1707) 香取市石納結佐大明神 聖観音像 「廿一夜」塔
- ・正徳3(1713) 香取市田部西雲寺 聖観音像 「廿一夜」塔
- ・享保6(1721) 香取市田部西雲寺 地藏像 「廿一夜」塔

### ⑤ 二十三夜塔をめぐる課題と事例

#### 1. 二十三夜塔の分布と事例

二十三夜塔は日本全国に分布するといわれるが、北総では、女人講の十九夜塔に次ぐ（十九夜塔基数の約半数）。刻像は勢至菩薩が多い。主に男性の講であるが、まれに女人講の場合もある。

- ・延宝2(1674) 印西市平賀 不動堂 勢至菩薩 像 二十三夜塔
- ・貞享3(1686) 香取市石納結佐大明神 二十三夜塔
- ・元禄16(1703) 香取市野間谷原水神社 光明真言 十九夜・二十三夜塔
- ・寛文10(1670) 印西市大森古新田 青年館 勢至菩薩・地藏像 二十三夜塔

#### 2. 八千代市の初期の事例

・寛文8(1668) 八千代市吉橋 尾崎大師堂 勢至菩薩像 二十三夜塔 「右勢至菩薩者廿三夜待開眼成就所 吉橋村施主敬白」銘、男性名連記。

同日の寛文8年10月10日に女性名連記で地藏像の日記念仏塔を建立「右地藏菩薩者日記念仏供養成就所 吉橋村施主敬白」銘

- ・寛文9年(1669) 八千代市萱田長福寺 日記念仏&二十三夜の三層塔。

勢至菩薩を第2層に浮彫りした2mを超す石塔。第2層右面には「廿三夜講」、左面には「日記念仏供養」。第1層は龕室となっていて、右面に「一結施主 女中衆」として「おつる おこう おくま」など24名の女性が、左面に「定宥 □左衛門 □兵衛 長十郎」など33名の男性、裏面には建立発起人とみられる「宥秀」ほか「加左衛門」など3名の村人が名を連ねている。

・元禄5年(1692)八千代市吉橋寺台公民館(勢至堂跡) 勢至菩薩像 二十三夜塔 「二十三夜開眼供養」男性名22人銘。

同日2月23日に女性30人連名で聖観音像の日記念仏塔を建立、両者の願文と経文の形式はほぼ同じ。

#### 4. 文字塔&林立する二十三夜塔群

・享和4(1804)八千代市高津字宮ノ前庚申塚 二十三夜塔 「廿三夜待勢至菩薩」銘 男性名連記  
・印西市(旧本埜村)荒野南の内の二十三夜塔群 文化年間~昭和13年 江戸時代の石塔は道標付が多い。明治8年からは「女人講中」銘

#### 5. 日蓮宗系&神道系の二十三夜塔

・寛政6(1794)八千代市高本国蔵院 題目二十三夜塔「南無妙法蓮華經 奉勸請二十三夜大月天子擁護」  
・元治元年(1864)船橋市上山町 神明宮「廿三夜大月天王 講中」  
・明治6(1873)八千代市米本字下宿東 道標付二十三夜塔 「廿三夜大神」

#### ⑥ 二十六夜塔をめぐる課題と事例

旧暦26日の月待の記念として造立した塔で、愛染明王を本尊とし、関東地方以北を中心に分布するという。「二十六夜塔」などと刻まれた文字塔と愛染明王の刻像塔があるが、北総での数は極めて少ない。男女別もデータ数が少なく不明。

八千代市大和田新田上区では、平成20年当時、20名ぐらいの女性により、「六夜さま」と称して正月・五・九月に講を開いていた。大和田新田上神明社前には、近現代の女人講の二十六夜塔が4基ある。

江戸期では、八千代市下高野の二十六夜塔の台石に「若者中」、旧本埜村荒野南の内の二十三夜塔群の道標付二十六夜塔の台石に「女人講中」とある。

江戸では「江戸の六夜待」として近世の江戸で隆盛をきわめた一時期があったという。月齢二十六前後の月は三日月のように細く、東天に姿をみせるのは明け方に近い時間である。7月26日のこの月光の中に、弥陀・観音・勢至の三尊が見えるといつて、文化・文政の時代には湯島天神などの高台や芝高輪品川などの海岸は見物客でにぎわい、月待信仰の名を借りた夜遊びの遊興娯楽の行事であったことから、風俗の乱れを懸念する幕府の取り締まりが行われ、天保期に入って急速に廃れたらしい。

・元禄5(1692)香取市石納結佐大明神 勢至菩薩像 二十六夜塔  
・文化8(1811)佐倉市弥勒町松林寺 愛染明王像 二十六夜塔  
・文化12(1815)八千代市下高野 道祖神社奥 二十六夜塔 「若者中」  
・文化15(1818)佐倉市井野 千手院 愛染明王像 二十六夜塔  
・安永8(1779) 旧本埜村荒野南の内 道標付二十六夜塔 台石に「女人講中」銘  
・明治28(1895)八千代市高本国蔵院 文字塔の二十六夜塔  
・明治14~昭和43(1881~1968)八千代市大和田新田上神明社前 「女人講中」銘 4基